

年 頭 挨拶

公益社団法人 埼玉県臨床検査技師会

会 長 神山 清志



新年明けましておめでとうございます。

会員・賛助会員の皆さまにおかれましては、つつがなく新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。旧年中は当会に対し、多大なるご支援、ご協力を賜りましたこと、深く感謝いたします。

昨年は、第98回箱根駅伝で青山学院大が大会新記録で2年ぶり6度目の総合優勝を果たし、北京で開催された冬季オリンピック・パラリンピックでは日本の選手の活躍に皆が歓喜の声をあげました。また、将棋界では王将戦で藤井聡太竜王が渡辺明名人に4連勝し19歳6か月で史上初めて10歳代で五冠を達成しました。

新型コロナウイルス感染症に関しましては、オミクロン株が大流行し、2月に1日の新規感染者数が10万人を超え、夏には感染力の強い同株の新系統「BA・5」が蔓延し7月には1日の感染者数が初めて20万人を超えるといった状況に陥りました。そのような状況に反して政府は、8月に全ての新型コロナ感染者を確認する「全数把握」を見直し、知事の判断で、対象を重症化リスクの高い人に限定できる仕組みを導入すると発表し10月には新型コロナの水際対策も大幅に緩和され、社会は「with コロナ」という概念が浸透してきました。

当会の活動は、各種研修会のWeb開催が浸透し、現地に赴かずに参加できるといった利点からか、普段、研修会に参加できない遠方の方、終業時間が遅い方、帰宅後に家事等をする必要がある方などの参加者が増え、危機の中からも新たな効果が見いだせました。

さらに、12月には第50回埼玉県医学検査学会並びに記念式典を大宮ソニックシティで開催することができました。この学会は小職が学会長として「伝統と革新～知・技・験の伝承～50回だヨ！全員集合～」をスローガンに、48回の武関学会、49回の飯田学会で立証された「感染対策をしっかりと行い臨床検査技師の知識をもって感染対策に臨めば現地開催は可能！」であることを念頭にWeb併催は行わず、現地開催一本に絞って企画を行いました。正直・・・開催当日まで一抹の不安はありましたが、皆様の協力で、学生から名誉会員の先生方まで一堂に会することができ、文字通り「全員集合！」の学会・記念式典となりました。

さて、令和5年は、新型コロナ、ウクライナ情勢、円安・・・不安材料が残ったままスタートとなります。当会としては社会情勢を鑑みつつ、部門別研究班並びに各種委員会による研修会を従前の現地開催も考慮して進めてまいります。また、第51回埼玉県医学検査学会は矢作強志氏（前当会副会長）を学会長とする実行委員会が既に準備を始めております。さらに、日臨技受託事情であるタスクシフト／シェアに関する指定講習会、臨地実習指導者育成講習会、地域ニューリーダー研修会、全国検査と健康展等も積極的に開催し臨床検査技

師の資質向上に努める所存です。

さいごに、執行部一同、本年も会員、賛助会員、地域のための技師会であるよう努力してまいりますので、さらなるご指導、ご鞭撻を賜りたく存じます。

本年もよろしくお願い申し上げます。